

Web標準規格をプチ解剖 いまさら聞けない HTML5 基礎知識

去年からあちこちで聞こえるキーワード「HTML5」。ここでは、Web標準規格の変遷とHTML5の仕様を確認します。

竹中 智

拡がるWebの 新基準「HTML5」

2009年ごろからWeb業界においてその名称とともに大きくクローズアップされてきた「HTML5(図1)」。

それまでの「HTML4.01」から「XHTML1.0(1.1)」へと改訂してきたHTMLの標準仕様は、HTML5の登場によって

新たな基準へと移行しつつあります。特にiPhone、Android端末など最近話題のスマートフォンでのWebページ閲覧においても、その親和性と利用価値の高さも含めて、今年以降ますます広がっていくのは確実視されています。

この新たなWeb標準規格の波に乗り遅れずに利用・活用していくために、「HTML5基礎知識」と題して、従来の

HTML仕様とHTML5の違いや、HTML5の普及によってWebデザインでは今後どのようなことが期待できるのかを、幾つかのポイントに絞って紹介します。

HTML誕生の背景

HTML※1(HyperText Markup Language)はイギリスの計算機科学者であるティム・バーナーズ＝リーの設計により1989年に開発され、その後、wwwの標準化団体W3C※2(World Wide Web Consortium, 図2)の規格を扱うワーキング・グループにおける批准プロセスによって勧告されています。

2000年代におけるHTMLマークアップ※3の主流であったHTML4.01がW3C勧告されたのが1999年12月。その直後の2000年1月には、HTMLの機能性をより重視し、XMLベースで開発されたXHTML1.0が勧告されています。

当時の主要ブラウザであったInternet Explorer(図3Microsoft)や、Netscape(Netscape Communications, 当時)のCSS※4実装が遅れていた2000年代



図1 HTML5のロゴ

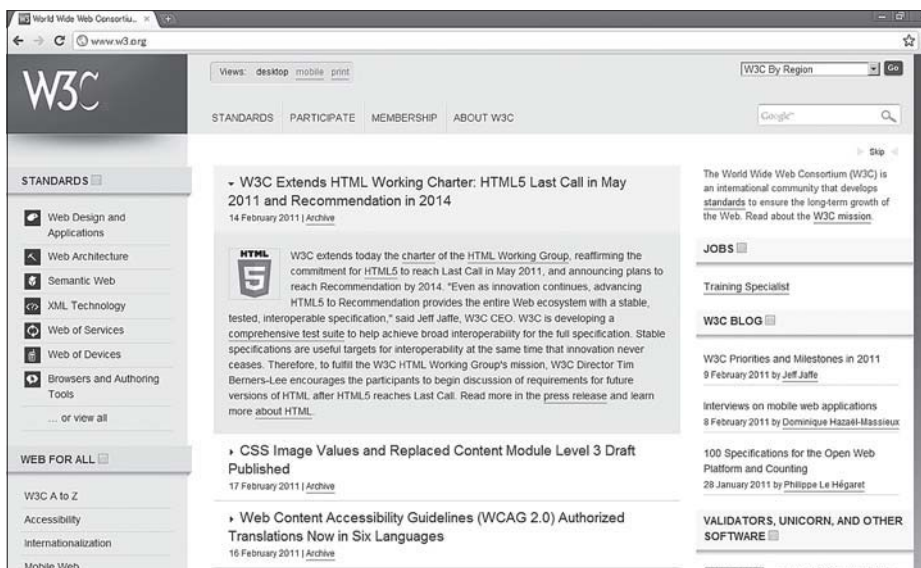


図2 W3CのWebサイト